

Activity Report

工芸史・工芸技術史研究室

活動報告1 平成25年度～30年度

富山大学芸術文化学部 工芸史・工芸技術史研究室
室長 准教授 三宮 千佳 副室長 教授 三船 温尚

■研究室設置経緯

工芸史・工芸技術史研究室は、平成25年（2013）12月に芸術文化学部内に設置された。室員は美術史・博物館学系、金属工芸系、漆工芸系、木工芸系教員によって構成している。その目的は、本学部が収蔵する工芸品とその道具や材料等について、工芸各分野の歴史的、技術的意義を体系的に調査・研究すること、またその成果を教育に活かし、展示公開することである。今回初めて本学部『紀要』に研究室の活動報告を掲載するが、設置の経緯とこれまでの活動内容は以下のとおりである。

本学部の前身である高岡短期大学の開放センターでは、研究用また教育用資料として金属工芸、漆工芸、木工芸また制作過程等の工芸技術を示す実物資料を収集し、さらに歴代教授から工芸作品の寄贈を受け、約220件の資料を収蔵していた。また、平成17年（2005）の富山県内の3大学統合により富山大学芸術文化学部が発足してからは、富山大学地域連携推進機構 地域づくり・文化支援部門が高岡短期大学の収蔵品を継承して活用し、企画展を実施した。平成25年以降は、本学部工芸史・工芸技術史研究室がその役割を引き継ぎ、活動を展開している。

本研究室では、平成25年以来6年間の間に、収蔵品の悉皆調査、収蔵品台帳の作成・整備、作品収集、調査研究、保管、展示公開等の業務にあたってきた。教員と学生が実物作品・資料を通じて教育と研究を推進し、研究成果を企画展等の事業として公開して、地域の伝統産業や文化の向上に貢献することを目標としている。

■作品寄贈、収集

1. 寄贈

(1) 大郷コレクション

平成27年（2015）、富山市出身の華道家大郷理明氏（古流松應会）より、長年の活動の中で蒐集された青銅花器を中心に漆工芸、木工芸、七宝工芸、竹工芸、陶磁器計312点の寄贈を受けた。多彩なコレクションの中でも、特に《富山県立高岡工芸学校銘 花器》をはじめとする青銅花器222点は近現代の極めて貴重な作品群である。



芸文コレクション'19

(2) 須賀松園工房作品・蠟型原型寄贈

平成30年（2018）、須賀正紀氏より、二代須賀松園の作品を含む松園工房の作品および未仕上げ作品、蠟型原型、中子、計5組8点の寄贈の申し出があり、受けることとなった。

室員の三船温尚を中心に、一部を室長の大熊敏之（当時）が、芸術文化学部で、3代松園氏の長男正紀氏より松園工房の蠟型鑄造の全工程の技法と須賀家の系譜などを聞き取り調査し、文字おこしをした。

2. 作品収集

(1) 平成23～27年度「文系芸術系研究用設備整備マスタープラン」により、金属工芸、漆工芸、木工芸の教育研究活動の充実を図ることを目的に、各分野の教員が作品を選定し計22件を購入した。

(2) 平成29年度に、活動の充実のため、研究室経費により金属工芸、漆工芸、木工芸作品計23点を購入した。現代クラフト等、既存の収蔵品にはない作品を選定した。

■図録『芸文コレクション①』の発行

大郷コレクションおよび「文系芸術系研究用設備整備マスタープラン」による購入作品の図録を発行し、全国の大学、美術館をはじめ関係機関に配布した。

発行日：平成29年（2017）3月31日

編集：三宮千佳、三船温尚、大熊敏之

■展示活動

1. 学部内での企画展

(1) 「芸文コレクションpreviewーほんの、さわりの30点」

会期：平成29年（2017）3月22日～4月7日

場所：高岡キャンパス ホワイエ、H184

「大郷コレクション」と「文系芸術系研究用設備整備マスタープラン」による新収蔵品から30点を紹介する展覧会を開催した。



GEIBUN COLLECTION 2017 in OTAYA 大郷コレクション花器

(2)「芸文コレクション'19 ー春、新たな門出を祝ってー」

会期：平成31年（2019）3月25日～4月17日

場所：高岡キャンパス H184、ホワイエ、学内各所

協力学生：金山謡、早川綾音、藤田梨花

氏原菜、長津晴菜、林孝美、山口優希

卒業、入学する学生に、金属工芸、漆工芸、木工芸作品に親しんでもらうことを目的として、収蔵品の中から富山ゆかりの作家をはじめ、全国各地の作家による19件を展示した。

2. 富山大学中央図書館での展示

「木地を活かすー挽物と刳物の美」

「鑄造花器って、おもしろいー大郷コレクションから」

会期：平成29年（2017）11月7日～12月8日

場所：中央図書館 2F

収蔵品の木工芸の中から、特に挽物と刳物の全国各産地の作品と、大郷コレクションの青銅花器計25点を展示した。

3. 学外での企画展

「GEIBUN COLLECTION 2017 in OTAYA」

会期：平成29年（2017）3月24日～3月26日

場所：御旅屋セリオ・大和高岡店

（1階アトリウム、6階特設会場）

主催：富山大学芸術文化学部

後援：高岡市、北日本新聞社、株式会社大和高岡店、オタヤ開発株式会社

生込み：池坊、小原流、草月流（五十音順）

企画：工芸史・工芸技術史研究室

高岡市と富山大学芸術文化学部が連携する取り組みである「文化創造都市高岡」の平成28年度事業の1つ「中心市街地における創造的コミュニティ拠点の提案」の一環としての企画展。大郷コレクションから選抜した作品37点を御旅屋セリオ・大和高岡店に展示し、北日本新聞カルチャーパーク高岡に教室のある、池坊、小原流、草月流の協力を得て生込みを行った。



彫漆箱「峽」 松本達弥 マスタープランによる購入作品

■授業における収蔵品の活用

「博物館実習」（三宮千佳、松田愛）や、「鑑賞のための造形演習」（三船温尚）などの講義、演習等において収蔵作品を活用し、学生が実物作品に触れながら学ぶ、実践的な授業を展開している。

■作品アーカイブの公開

平成29年度（2017年度）に、「大郷コレクション」および「文系芸術系研究用設備整備マスタープラン」による購入作品について作品アーカイブを制作し、学部ホームページにおいて公開している。

■地域プロジェクトでの作品展示

高岡銅器発祥の地である高岡市金屋町で、市と金屋町、本学部が連携して実施している地域プロジェクト「金屋町楽市 in さまのこ」、またその後継の「ミラレ金屋町」に対し、平成26年（2014）以降毎年収蔵品を貸し出し、各町家で展示している。

■学部内での収蔵品取扱研修

平成29年（2017）9月15日、学生・教職員を対象に、作品の取り扱いや梱包、展示方法の講習を実施した。

以上、平成25年度の設置から6年間の活動内容について概要を紹介してきた。なお、令和元年度（2019年度）の秋には、大郷コレクションの新たな寄贈と企画展を予定している。さらに令和2年度には京都・泉屋博古館での須賀松園作品や青銅花器等の企画展が控えている。今後も調査研究、展示公開活動を活発化させ、学生および教員の教育・研究の推進、また伝統工芸の街高岡の豊かな地域文化の醸成に貢献していきたい。

平成31年度（令和元年度）室員

室長 三宮千佳（美術史、博物館学）

副室長 三船温尚（金属工芸）

室員 高橋誠一（漆工芸）、内藤裕孝（木工芸）